双葉葉通信【第９７回】“ふくしまの切捨ては許さない”　　20200401

上　田　　勉

４月は別れと出会いの季節　私の近況

４月は別れと出会いの季節です。皆さんにはどのような別れと出会いがありましたか？

私は４月から、楢葉町役場から大熊町役場へ移動しました。年齢も 71 歳になったので、リタイアも考えましたが、あと１年間福島に留まることになりました。こちらは３密とは反対の過疎地なので、新型コロナウィルスに対しては安全かもしれません。

皆さんんは大熊町を知っていますか？双葉郡は南から北へ、浜通りには、大野町・楢葉町・富岡町・大熊町・双葉町・浪江町があります。阿武隈高地には、川内村・葛尾村があります。広野町には東京電力火力発電所、楢葉町と富岡町には東京電力福島第二原子力発電所、大熊町と双葉町には東京電力福島第一原子力発電所があります。貧しくても美しい土地に原発が建ったのです。原発事故後東京圏が計画停電になった時、福島から避難した人が周りの人から「何で私達は福島のためにこんな目に合わなければならないのか」と言われたそうです。その人は一人なので反論できませんでしたが、「福島はあんた達の為に電気を送り続けてきたんだ」と言いたかったそうです。

大熊町では去年４月 10 日に、中屋敷地区と大川原地区が、初めて避難指示が解除されました。町内にはコンビニが２軒、雑貨屋が１軒、飲食できる店が２軒だけです。町にはスーパーも病院もありません。車が無ければ生活は困難です。3 月 14 日に JR 常磐線が開通しました。しかし、大野駅の周辺は帰還困難区域なので、家々は柵で囲まれています。

2022 年には、大野駅周辺の特定復興再生拠点区域で、避難指示解除が予定されています。原発事故から 12 年間が経って、やっと町の活動が始まるのです。町を南北に走る国道６号から東側の海までは、中間貯蔵施設です（東京ドームの 10 倍の広さ）。フレコンパック（汚染した土壌）を積んだトラックが、1 日何百台も通ります。中間貯蔵施設の土地の所有者は、環境省と 30 年間の賃貸借契約を結んでいます。所有者は、30 年間は自分の土地に戻れません。国と福島県・東京電力は協定を結んでいて、中間貯蔵施設は 30 年後には他県に移すことになっています。しかし、他県に移せると思っている町民は一人もいません。

【大熊町の現況】◇（2011 年 3 月 11 日現在）＊人口：11,505 人
◇（2020 年 4 月 1 日現在）＊人口：10,295 人（△1,210 人）＊町に住民登録がある居住者：196 人＊町内居住推定人口：836 人―主に東京電力の関係者
【大熊町住民意向調査】調査時期：令和元年 10 月 28 日～11 月 1 日、回答者数：2,160 世帯（回収率：41.5%）**〈大熊町への帰町意向〉**
「すでに大熊町で生活している（1.8%）」「戻りたいと考えている（10.6%）」「まだ判断がつかない（26.5%）」「戻らないと決めている 60.0%）」「無回答（1.1%）」

【帰還した住民よりも職員の方が多い？―私の仕事場（大熊町役場）】

【3 月 14 日に再開した JR 常磐線大野駅―周りの家々は柵で閉鎖（大熊町）】

【私の住所】福島県双葉郡楢葉町